

【声明】

国に基準引き上げを求め、生活保護減額を違法とした熊本地裁判決に従い控訴を断念し、制度を改善することを求める

2022年5月25日
全国生活と健康を守る会連合会
会長代行 吉田 松雄
東京都新宿区新宿 5-12-15
KATOビル3階
TEL 03 (3354) 7431
FAX 03 (3354) 7435

熊本地方裁判所は5月25日、熊本県内の生活保護利用者36人が、国が2013年10月から3年間行った生活保護減額は、生存権を保障した憲法25条に反するとしてたたかった「生活保護基準引き下げ違憲訴訟」で、減額は生活保護法に反するとして、処分を取り消す原告勝訴の判決を言い渡しました。「大阪地裁」に次ぐ地裁段階での歴史的な勝訴判決であり、この間の地裁不当判決を乗り越えた画期的な判決です。全国29都道府県の1000人近い原告がたたかっている「生存権裁判」に、大きな影響を与えるものです。

全生連は、04年の高齢加算減額、13年から連続して強行された保護減額処分の取り消しを求め、全国1万人審査請求運動などに取り組み、裁判を共にたたかってきました。引き続き裁判勝利のために奮闘する決意を表明します。

熊本地裁判決では、大阪地裁の「デフレ調整に対して統計等の客観的な数値等との合理的関係性や専門的知見との整合性を欠く」としたのに加え、「ゆがみ調整」についても大臣の過誤欠落があると、一步踏み込んだ内容でした。

判決は全生連の主張と要求の正当性を証明するものです。また、連続して保護基準を引き下げてきた当時の安倍政権の社会保障削減政策を正面から問うものです。

私たちは、国、被告処分庁（福祉事務所）に控訴を断念し、速やかに判決を確定することを強く要求します。また、国には判決に基づいて、保護基準を元に戻すことを強く要求します。

コロナ感染症の収束が見えない中で、貧困と経済格差が広がり、国民の生存権を保障する生活保護制度の役割は極めて重要になっています。しかし、生活保護を必要とする人のうち、20%程度の人しか利用できていません。コロナ禍の下で生活保護制度が機能を発揮できるようにすることが必要です。

全生連は、社会保障の改悪中止、引き下げた生活保護基準を元に戻し、国民の生存権保障確立を求めるすべての人々、団体、政党と共同し、引き続き要求を実現するために奮闘するものです。

以上